

早稲田大学大学院文学研究科

文化人類学コース ガイダンス

2020年7月

文化人類学コース室

2020年度版

文化人類学コース

1

文化人類学コースの歴史

- 早稲田大学での文化人類学教育には歴史がある。
(例)最初に「文化人類学」の用語を教育に取り入れた大学
- しかし、コースとしてまとまった組織的教育がおこなわれるようになったのは、最近一まだ20年ほど。
- 後発の大学院教育 →その強みを生かす

2020年度版

文化人類学コース

2

現代の文化人類学コースの理念

＜後発の強みを生かす＞

1. 基礎教育をしっかりと、卒業後のどのような状況にも備える。
2. 人類学知識の応用ができるようにする。
応用人類学の分野を強める。
3. フィールドワークを積極的におこなう。
4. 海外の大学や研究機関と連携をとる。

2020年度版

文化人類学コース

3

教育の方針

- フィールドワークに強い人材をつくる。
修士課程の段階から、フィールド調査(外国でのフィールドワークを含む)に出る。
- フィールドの言葉を積極的に学ぶ。
- 「ラポール」の築き方を学ぶ。
- 留学のサポートを行う。
- 研究資金を取るサポートを行う。

2020年度版

文化人類学コース

4

修士課程の教育

<第1年目>

- 基礎理論を学ぶ
- 研究の方法論を学ぶ
- 研究テーマを決める
- テーマにそってリサーチデザインを作る

<第2年目>

- 研究の問題点を絞り込む
- フィールド調査を行う
- 結果を分析する
- まとめて論文にし、修士号を取得する

2020年度版

文化人類学コース

5

博士課程の教育

<第1年目>

- 先行研究を精査し、その内容を学会で発表、あるいは論文にする。
- 現地の言語を学ぶ(日本でフィールドワークをおこなうにしても、その地域の人々が話す言葉を学ぶ)。
- 自身の研究テーマを絞り、それにそってリサーチデザインを作る。
- 長期フィールドワークのための研究資金を獲得する準備をする。

2020年度版

文化人類学コース

6

博士課程の教育

<第2年目以降>

- フィールドワーク(1年から2年)
- フィールドワークの結果の中間報告→学会で発表し、また、論文にする。
- フィールドワークのフィードバック。
- 補足のフィールドワーク。

<第3年目以降>

- データの分析と論文執筆。
経過を学会で発表、論文を書く。
- 博士論文を完成させ、博士号を取得する。

2020年度版

文化人類学コース

7

現在のスタッフ①

國弘 暁子(くにひろ あきこ)

- フィールド: インド、フランス
- 研究テーマについて: ジェンダーと宗教に関わるテーマに関心を持つ。インド北西部のグジャラート州において、世俗のジェンダー規範を捨てて女神に帰依する人々(一般にはヒジュラとして知られる)と日常を共にしたフィールドワークを実施。それによって、規範の外に存在する異人が必要とされる喜捨の慣習、そして、ジェンダー規範を永続させるために異人が言祝ぐ慣習についての考察を行う。現在は、ジェンダーとヘゲモニーとの関連について関心を持ち、その研究テーマを追究するために、フランスでのフィールドワークに挑戦中。

2020年度版

文化人類学コース

8

現在のスタッフ②

松前 もゆる(まつまえ もゆる)

- フィールド:ブルガリア、日本(岩手県)
- 研究テーマについて:ジェンダー、仕事(労働)、出稼ぎや移住、日常における民族と宗教といったテーマに関心をもっています。具体的には、主としてブルガリア村落部で継続的にフィールドワークをおこない、社会主義からの体制転換やEU加盟といった社会変動のなかでのジェンダー規範と仕事の変容、女性の国際労働移動などについて人びとの日常から考えることを続けてきました。現在は、体制転換以降に育った若者世代の仕事観や家族観に関して考察を進めていて、今後、EU内での国境をこえるケアのありようについても検討したいと考えています。

2020年度版

文化人類学コース

9

卒業生の動向

<修士課程>

1. 博士課程進学—早稲田大学、東京大学、京都大学、海外の大学院(ハーバード、コロンビア、カリフォルニア、ロンドン大学等)
2. 企業に就職—マスコミ、映像関係、金融、IT関連、製造業
3. 開発コンサルタントなど
4. 公務員(国家、地方)
5. 国際機関

2020年度版

文化人類学コース

10

卒業生の動向

<博士課程>

1. 大学、研究機関
2. 国際機関
3. 国家公務員関連
JICA、大使館など
4. マスコミ、映像関連
5. 開発コンサルタント

2020年度版

文化人類学コース

11

最近の大学院生のフィールドとテーマ

<修士課程>

- 近年の修士論文
 - ・「神に祈るは「文化」にあらざーマスジド大塚に集うムスリムと日本社会の「宗教」・「文化」理解ー」
 - ・静岡市久能地域の観光とアクターに関する研究
 - ・「麗江における男女出会いの文化の形成と麗江の都市発展に及ぼす影響に関する研究」
 - ・「現代社会における聖なる空間の役割」
 - ・「ウィーン禅センターにおける禅の受容と実践」
 - ・「「伝統」に頼らないまちづくりー浅草おかみさん会の取り組みを通じた考察ー」
- フィールドとテーマ
 - ・秩父巡礼地における施餓鬼と功德に関する考察
 - ・中央アンデスにおける農民と遊牧民の相互扶助関係
 - ・横浜中華街における中国東北出身者のネットワーク

2020年度版

文化人類学コース

12

最近の大学院生のフィールドとテーマ

<博士課程>

- 日本: 四国の民俗、新規就農(現代日本における働き方、ライフスタイル)
- 国外: ラオス(文化遺産、織物、食の人類学)、フィリピン(開発人類学)、インドネシア(少数民族のエスニシティと開発)、カンボジア(医療人類学)、ネパール(観光人類学)、トンガ(ビジネスアンソロポロジー)、アメリカ(伝統舞踊の真正性、アラスカにおける生業・宗教・生存)

2020年度版

文化人類学コース

13

さらに情報を知りたい方のために

<文化人類学コース室>

- 〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学学術院 33号館8階801室
- お問い合わせ先
E-mail: waseda.anthropology@gmail.com

2020年度版

文化人類学コース

14